

昭和はこんなだった展

～『昭和のくらしと道具図鑑』 発刊を記念して

2022.9.9～2023.8.27

プラスチックやビニールがなかった時代、家でお産をしていた時代は、いったいどういう生活だったのでしょうか？
このたび発刊する図鑑では、衣・食・住・病気・衛生・出産・戦争中のくらし・年中行事・子どもの遊び・娯楽などを、昭和のくらし博物館の収蔵品を使って解説しています。そこに登場する、普段は展示されていない道具の中から一端を取り出して紹介します。

昭和戦前から昭和30年代頃、すなわち工業化、高度成長期以前と今が、いかに大きく変わったのか。決して便利ではなかったけれど、自然に近く、つつましかったくらしを見つめ直します。



- <展示内容>
- ◎腰巻からショーツへ～下着革命の昭和
 - ・あっぱっぱ
 - ・衣服の手入れ
 - ・昭和20年代婦人服 下着の再現
 - ◎プラスチックがなかったとき
 - ・漫画に描かれた 買い物風景 (「三丁目の夕日」より)
 - ◎お弁当とおやつ
 - ・アルマイトの弁当箱
 - ・おやつの人気と不人気
 - ◎お産は家でした
 - ◎小泉家住宅
 - ・材料の節約と 空間の利用
 - ・新しい試み

電灯、ダイヤル電話、
雨戸の鍵の体験コーナー
があります



- 開館日時
金・土・日・祝日
10:00～17:00
- 入館料
大人 500円
小中高生 300円



昭和のくらし博物館 (登録有形文化財 旧小泉家住宅)

〒146-0084東京都大田区南久が原2-26-19
<http://www.showanokurashi.com>
mail@showanokurashi.com
 tel/fax 03-3750-1808



昭和26年建築の木造2階建て庶民住宅と家財道具を保存し、丸ごと公開している博物館。昭和30年前後の生活風景の常設展の他、企画展、特別展を開催。くらしを考える講座を随時開催している。1999年に、家具道具室内史・生活史研究者の小泉和子が設立し、現在はNPO法人昭和のくらし博物館が運営。書斎、お茶の間、台所、子ども部屋、縁側などを回遊しながら、四季に応じた昭和のくらしを体感できる。

*最新情報は公式SNS(Twitter/Facebook)でも発信しています
 *ご来館の際は感染症対策をお願いいたします

